



## 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催 ～地域の森林・林業における課題等について意見交換～



森林・林業に係る地域の課題等について意見交換を行った協議会の模様

平成30年11月20日に熊本市内において「平成30年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催しました。  
この協議会は、地域と国有林野事業の連携強化を図り、地域の発展と国有林野事業の円滑な遂行を図るため、国有林が所在する地域の市町村長（代表世話人）及び九州森林管理局長、代表森林管理署長等で構成される協議会であり、毎年開催しているものです。

会議冒頭では、原田隆行九州森林管理局長から、「林野庁では、森林・林業の活性化、林業の成長産業化、森林の公益的機能の発揮に向けて、新たな森林管理システムや森林環境譲与税（仮称）の導入等の政策を展開しているところである。森林管理局は国有林行政を直接担当はしていないが、各地域にある国有林の管理経営を通して国有林行政に貢献していきたいと考えている。各市町村とは、今後さらに連携を取りながら進めていきたい。林業の担い手の確保、市町村職員の人材育成など様々な課題があるが、これらの課題について意見交換し、局を挙げて一つでも前向きにできることを探りたい。」との挨拶がありました。また、林野庁から出席した五関国有林野生態系保全室長及び長崎屋造林間伐対策室長より林野庁の主要な取組みや平成31年度予算概算要求の状況等について説明が行われました。



挨拶をする原田局長

その後、ご出席いただいた市町村長より、各県単位で開催された有志協議会のご報告や、各市町村での森林・林業に係る取組みについてのご紹介をいただきました。市町村長からは、新たな森林管理システム及び森林環境譲与税（仮称）への期待、シカ・イノシシなどの鳥獣被害対策の強化、自然災害からの早期の復旧、公共建築物の木造化・木質化の推進などについてご発言いただき、意見交換を行いました。

最後に原田局長より、「各市町村とは、地域林政対談において各市町村長の皆様と直接対話するとともに、災害時の迂回路や被災状況の情報共有をする「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」を締結しているところである。引き続き、各市町村と連携を密にし、地域が抱える課題にしっかり対応していきたい。」との発言があり、盛会の中で終了しました。

九州森林管理局では、いただいたご意見やご要望をふまえ、国民共通の貴重な財産である国有林野が開かれた「国民の森林」となるように努めて参ります。

（担当：企画調整課）

# 森林・林業の技術交流発表大会を開催

平成30年10月29日、30日の両日に渡り、くまもと県民交流館パレアにおいて「平成30年度森林・林業の技術交流発表大会」を開催し、九州各県の森林・林業関係者や森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など約250人が参加しました。

発表大会では、それぞれの地域で取り組んでいる林業技術の開発・改良や林業担い手の確保への取組、普及指導業務の実施例、収益性の改善など地域における林業の活性化と林業技術の向上に繋がる36課題（一般の部30課題・高校生の部6課題）の発表がありました。

この発表大会は九州林政連絡協議会が主催し、産学官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行うことにより、森林・林業の活性化を図ることを目的に開催しているもので、今回で24回目となります。

1日目は、同協議会会長の当局原田隆行九州森林管理局局長より、「日本の森林・林業の再生に向け、地球環境への貢献と林業成長産業化への取組を推進することが重要であり、今回の発表は九州における森林・林業の諸課題を的確に捉えた研究成果に期待するとともに、本大会を契機に相互の交流や情報共有が一層盛んになることを期待する。」と挨拶。

その後、「森林技術部門」と「森林保全部門・森林ふれあい部門」の2会場に分かれ一般の部30課題の発表を行いました。

2日目は、九州森林管理局と連携協定を結んでいる5大学（九州大学、熊本県立大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）による研

究成果の特別発表と高校生の部6課題（佐賀県2校・熊本県4校）の発表を2会場に分かれて行いました。

## 【5大学からの特別発表課題】

▽樹幹表面積をもとにした密度指標の提案

（熊本県立大学）井上昭夫教授

▽スギ・ヒノキ人工林における帯状・群状伐採の可能性

（九州大学）溝上展也准教授

▽人工林を天然林に戻すためにどのような技術が必要なのか？

（宮崎大学）光田靖教授

▽コウヨウザン植栽苗における食害防除手法の検討

（鹿児島大学）鶴川信准教授

▽ヤクスギ林5固定試験地における継続調査の成果

（琉球大学）高嶋敦史教授

最後に審査委員長の（国研）

森林総合研究所九州支所陣川雅樹所長より各発表について審査講評があった後、九州林政連絡協議会長賞（一般の部：最優秀賞2課題、優秀賞6課題）及び九州森林管理局長賞（高校生の部：最優秀賞1課題、優秀賞2課題）の発表があり受賞者へ表彰状を授与し、2日間に渡る発表大会を終了しました。

（担当）技術普及課

**36課題の中から評価の高かった一般の部8課題・高校生の部3課題を表彰**

平成30年度森林・林業の技術交流発表大会において、受賞された課題と発表者は次のとおりです。

## 【一般の部】

九州林政連絡協議会長賞

最優秀賞（2課題）

◇UAV（無人航空機）を活用した山腹測量の可能性について

宮崎森林管理署都城支署

丸橋 勝寿

渋谷 昂大

◇シカの忌避植物を利用した更新方法について（第2報）

北薩森林管理署

田畑 駿也

小薄 政弘

緒方 琴音

優秀賞（6課題）

◇林業用種苗の原種苗木におけるトレーサビリティの構築

（国研）森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター九州育種場

大久保 典久

成田 有美子



北薩森林管理署



宮崎森林管理署都城支署

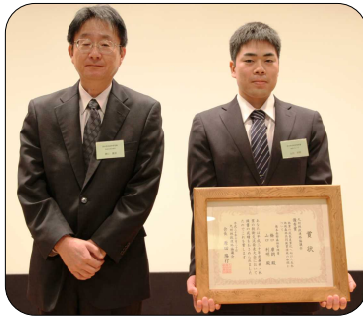


林木育種センター九州育種場

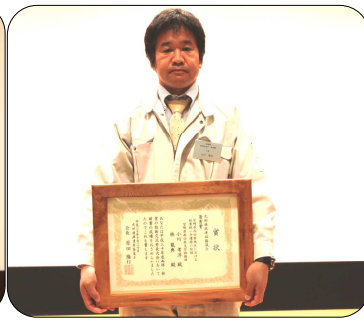
◇UAVオルソによる業務効率化の可能性「収穫調査に着目して」

宮崎森林管理署

室木 直樹



熊本南部森林管理署



宮崎県西臼杵支庁



宮崎森林管理署

東條 衣里子

◇宮崎県西臼杵地区における林業担い手確保の取組  
宮崎県西臼杵支庁

小川 考洋  
林 龍典



脊振の自然を愛する会  
福岡森林管理署



長崎県北振興局 小値賀町  
(財)小値賀町担い手公社

◇林業の成長産業化へ向けた五木地域森林共同施業団地の取組について  
熊本南部森林管理署

橋口 康朗

山口 利明

◇小値賀町における松くい虫被害対策の取組について  
長崎県北振興局

黒岩 康博

小値賀町

山元 忍

(財)小値賀町担い手公社  
松本 充司

◇脊振山系、野河内溪谷の整備活動について  
福岡森林管理署

脊振の自然を愛する会

池田 友行

【高校生の部】  
九州森林管理局長賞  
最優秀賞(1課題)

◇守り、そしてつたえる虹ノ松原「永久に続く地域文化遺産の継承」  
佐賀県立唐津南高等学校

藤川 天

瀧浪 零可

牧原 瑞穂

坂 琴羽

松田 祐果

桑野 あみ

杉岡 真奈

前田 常至

優秀賞(2課題)

◇自伐型林業で地域復興  
熊本県立阿蘇中央高等学校

岩下 瑠希

井 悠夏

野口 拓人

市原 知樹

荒木 誠

◇芦高版 木育・森育活動「森の未来、小さな手に託して」  
熊本県立芦北高等学校

山下 真輝

鬼塚 愛理

向川 雅哉  
橋本 奈々  
林 哲也



唐津南高校のみなさん



阿蘇中央高校のみなさん



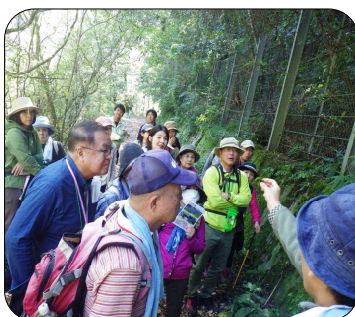
芦北高校のみなさん

アクトシティの森へ猪八重溪谷で「コケの森」を観察する

【宮崎南部森林管理署】8月28

日に「日本の貴重なコケの森」に認定された猪八重の滝風景林で日南市主催のコケの観察会が10月13日に開催されました。

観察会は片桐知之服部植物研究所所長を講師として、日南市や宮崎市から自然愛好家の方々20名が集まり、ルーペやスプレーを使って胞子の様子や水分を含んだときの変化などを観察しました。



コケの森観察会の様子

参加者の方々は、猪八重に約300種類のコケがあることや何億年も昔から生息している種類もあるという説明に驚いていました。また、7200年前に鹿児島島の鬼界カルデラが噴火した時の地層の説明では人の寿命の短さに比べ自然の営みの長さを感じていました。また、同

時に開催した「コケ玉作り教室」にも6名の皆さんが参加され、NPO法人「ごんはる」の谷口由利子さんの丁寧な指導のもと



コケ玉作り教室の様相

で、ナンテンやユキノシタなど山野草を使ったコケ玉作りに取り組みました。

今回の観察会はコケの森認定の記念観察会として開催されましたが、今後も継続的に行ってもらい、レクリエーションの森の「猪八重の滝風景林」が更に活性化されることを期待しています。

## 国際協力機構(JICA)から 研修生を受け入れる

### 【西表森林生態系保全モニター】

国際協力機構(JICA)北海道国際センター(帯広)から「地域住民の参加による持続的な森林管理コース」の研修生を10月30日から31日の2日間受け入れました。

1日目は、午後から石垣地方合同庁舎会議室において、12カ国の研修生12名に対し「西表島の森林・林業等」について講話を行いました。

質疑応答では、当保全センターのモニタリング調査及びマンングロープ林等について、予定時間を超過するなど、様々な意見や質問がありました。

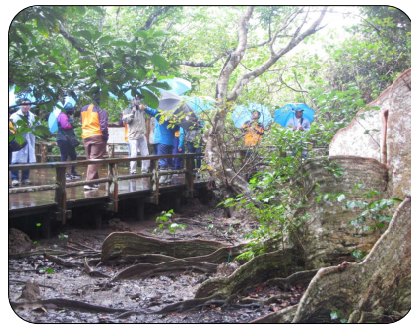
2日目は、石垣島から西表島に渡り、外来種キヌネムの侵入・繁茂が激しい南風見田海岸において、当保全センターで取り組んでいる「海岸林の再生について」の説明を行い、在来種である防風・防潮効果のあるテリハボク、フクギを植えている試験地を視察しました。

その後、竹富町交流センターに移動し昼食をとり、大原港から仲間川の遊覧船に乗り、日本最大のマンングロープ林やサキシマスオウノキ(森の巨人たち百選)を視察しました。途中、中流船着き場で舟を下り大富展望所へ移動しました。

雨模様で霧が立ちこめる中、眺望できるのか心配しましたが、日頃の行いが良かったのか、雄大なマンングロープ群落が眼下に広がる光景を鑑賞することができました。

また、大富歩道を約1時間歩

きながら、熱帯林の様々な動植物を探索しつつ、研修生から質問を受けながらの楽しいウォーキングとなりました。



サキシマスオウノキを眺める研修生

今回は、あいにくの雨の中の研修となりましたが、和気藹々の中、当センターの日程も終わりました。

帰国後の研修生の活動に寄与することを期待します。

## 福岡県朝倉市において 国有林モニター会議を開催

九州森林管理局では、国有林野事業の運営等について幅広く国民の皆様を理解いただくとともに、意見、要望等を聴取することを目的として、国有林モニター制度を実施しています。

現在、九州の国有林モニターとして登録いただいている方は52名ののぼり、平成30年度から2年間の任期で様々なモニター

活動を行っていただいているところでです。

このような中、11月10日に国有林モニター会議を開催し、平成29年7月九州北部豪雨の被災地、福岡県朝倉市を視察しました。

当該地は被害が広域にわたり甚大であったため、当局が福岡県知事から復旧の要請を受け、「国有林直轄治山事業」として事業を実施しています。

当日は天候に恵まれ、絶好の視察日となる中、27名のモニターの皆様にご参加いただきました。会議には、松末地域コミュニティ協議会の伊藤睦人会長にご出席いただき、災害発生当時の具体的な状況や心境を生々しく語っていただきました。



災害時の状況等を語る伊藤会長

モニターの方からは「実際に被害に遭われた方の真に迫るお話を聞き、災害について理解が深まった。」といった声もあり、

伊藤会長のお話真剣に聞き入っている様子でした。そのほか、

当局が直轄で行っている国有林直轄治山現場にも訪れ、治山作業の必要性や施工の際の地元住民とのやり取りなどについて多くのご質問をいただき、参加されたモニターの方々との活発な意見交換を行うことができました。(担当:企画調整課)

## 屋久島町立八幡小学校で 森林教室を開催する

【屋久島森林管理署】当署においては、11月1日に屋久島町立八幡小学校の3年生14人に対して森林教室を開催しました。この森林教室は、八幡小学校の総合的な学習のプログラムの一環として、「野鳥について知ろう」をテーマに当署に要請があったものです。

当日は玄関前で先生と3年生14人の出迎えを受けて教室に移動し、当署の吉村浩二主任森林整備官の挨拶の後、まずは森林の働きについて学んでもらうために山口聖技官から紙芝居「森林からの贈り物」を説明し、児童らから活発な質問を受けました。

続いて本題である野鳥については、専門家顔負けの野鳥の知



鳥先生の池田技官

識を有する池田一穂技官がパワポイントや図鑑により、野鳥の生態や鳥の羽の仕組み、屋久島にいる野鳥の種類などについてクイズを交えながら説明しました。その後、校外に出てのバードウォッチングでは、池田技官の指導により、実際にヒヨドリやキセキレイなど7種の野鳥の観察を行う事が出来て、児童らは目を輝かせながら双眼鏡を覗き込んでいました。池田技官が余りにも野鳥に詳しいため、い



紙芝居する山口技官

つのか先生や児童らから「鳥先生」と呼ばれるようになりました。最後に、児童から「あっという間に時間が過ぎて楽しかった」、「またやってほしい」などの感謝の言葉をもらい、当署としても初めての野鳥に関する森林教室を無事に終了することが出来ました。

## 「平和と環境の森」で森林の役割をPRする

【大分森林管理署】11月3日、由布市庄内町に所在する立石国有林内の分収造林地（2.61ヘクタール）において、食と水を守る大分県労農市民会議（議長：篠田良行）主催により、「平和と環境の森」造成事業が小学生以下6名を含む総勢36名の参加により開催され、大分森林管理署では、要請を受け当署職員9名が参加しました。はじめに、主催者の篠田議長から、「この平和と環境の森は、平成8年4月に同市民会議により、森林の造成を行い今年で23年目を迎えました。当時のことを思うと随分大きくなったと感じています。本日は、山の恩恵を学んでもらいたい。そして、学習の場としてもどういう利用の仕方があるのかも含めて今日一日過ごしたい。また、準備等

含め大分森林管理署の皆様へ感謝申し上げます。」と挨拶がありました。

つづいて、坂本和隆大分森林管理署長から、「平成8年に分収林契約を締結し、市民会議の皆様により植栽や下刈り、間伐等の活動が毎年続けられ立派な森林に育っています。森林は木材の生産、地球温暖化防止や環境を保全するとともに大切な水を育み田畑を潤し、人々の生活を豊かにする等大きな働きがあります。そうした森で、森林の働きを感じていただきながら一日楽しく過ごして下さい。」と挨拶がありました。

今回は、自然観察等を主体とした内容のものを準備し、はじめに、井上和也主任森林整備官から参加者の皆さんがリラックスできるように「はじめまして



参加者全員で記念撮影

カードゲーム」で場を和ませることからスタートし、森林の中で感覚を研ぎ澄ます「宝物探し」、種の模型を作って遊ぶ「種とばし」、「広葉樹林内の自然観察」を行い森林の役割など説明しました。その後、山元義希技官、木下昂大技官による、紙芝居「森林からのおくりもの」により森林の役割を紹介しました。行事の締めくくりは、手作りの豚汁と準備したおにぎりを食べながら楽しい一日を過ごしました。

今後も、こうした活動を通して森林・林業への理解を深めていただくとともに国有林のPRにも取り組んでいくこととしていきます。

## 鹿屋労働基準監督署及び関係機関と合同安全パトロールを実施する

【大隅森林管理署】当署における請負事業者等の労働安全確保については、発注者の立場から契約時をはじめ機会ある毎に労働災害防止等について注意喚起を行っているところです。

今般、厚生労働省の「第13次労働災害防止計画」において林業が「重点業種」に追加され、労働災害防止対策の充実を図るとされたこと、及び九州森林管理局管内においても伐倒作業に起因する災害が後を絶たないため、林業労働災害防止に向けた

取り組みを強化する観点から、平成30年11月6日に鹿屋労働基準監督署及び林災防鹿屋支部、九州森林管理局及び当署による合同の安全パトロールを実施しました。

今回の安全パトロールは、平成29年度に立木販売の伐倒作業において20本のかかり木を発生させ、災害（重大災害に準ずる災害）に至った事業者の作業現場において実施し、災害後の安全対策等について聞き取りや現場での作業状況等を確認しました。

現地における安全確保対策等について参加者から活発な意見が出され、作業手順の基本事項の遵守などを再確認し、今後も各機関が連携して林業における労働災害防止に取り組むことを約束し閉会しました。



パトロールを実施した作業現場

**森林のアートギャラリー表彰式・除幕式を開催**  
**35作品の中から最優秀賞1点・優秀賞5点を選出**

11月18日、九州森林管理局において、「第14回森林のアートギャラリー」の表彰式及び除幕式を開催。制作にあたった生徒達のほか、指導した先生・保護者など52人が出席しました。

今年のテーマは「山の恩恵」。8月11日が国民の祝日となったことを記念して、『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』「山の日」の意義を広く市

民に普及するため、熊本市内の中学校を対象に募集しました。

16校から35作品の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞5点を選出しました。

最優秀賞作品を九州森林管理局正門東側外壁、優秀賞作品を東側フェンスに設置しました。作品の講評を日本森林林業振興会津々見正樹熊本支部長より

コメントをいただき、松葉瀬裕之森林整備部長より表彰しました。



最優秀賞作品の前で記念撮影

これまで展示されている作品は道行く人たちの心を癒し、地域から好評を得ています。今回展示した作品も「山の日」制定の意義とあわせ、自然や森林について考えてもらうことを期待し、今後2年間展示します。

（担当）技術普及課

**【優秀賞】**



「恵」

熊本市立 鮑田中学校 美術部 2年生

**【最優秀賞】**



「芽生える命」

熊本市立 桜木中学校 美術部 2年生

**【優秀賞】**



「喜びの輝き」

熊本市立 出水南中学校 美術部 1年生

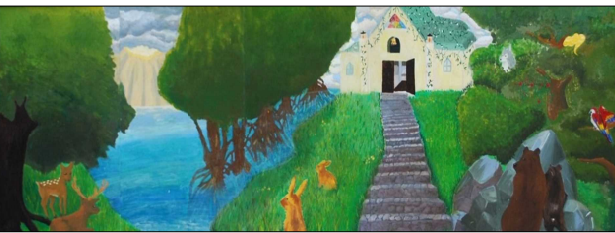
**【優秀賞】**



「私の見たい山」

熊本市立 出水中学校 美術同好会 1～3年生

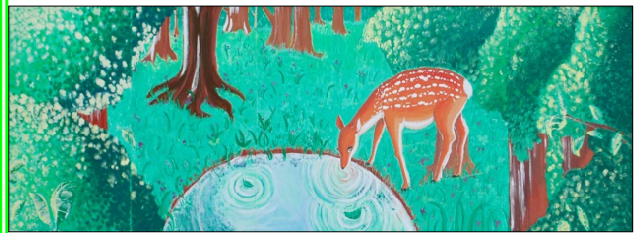
**【優秀賞】**



「光差す湖のほとりで」

熊本大学教育学部附属中学校 美術部 2年生

**【優秀賞】**



「安らぎ」

熊本市立 西山中学校 美術部 1～3年生

# 消防（地震）訓練実施

地震・火災発生に備えた「シェイクアウト・初期消火避難訓練」

10月9日から15日までの一週間、「忘れてない？サイフにスマホに火の確認」の全国統一防火標語の下、秋季全国火災予防運動が行われる中、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防の意識を高めるため、九州森林管理局においても、11月13日、局庁舎において消防訓練及び地震に備えたシェイクアウト訓練を行いました。



ハンカチマスクで避難

消防訓練は、熊本市西消防署池田庁舎にご協力をいただきながら、火災発生時の通報、初期消火や避難誘導などを、全職員が参加し実施しました。また、避難終了後は、消火器を使った初期消火の訓練も体験しました。訓練後、消防署から、火災の時は、火災発生を大声で知らせること。避難経路を確保すること。



消火器で初期消火訓練

と（危険と判断したら避難を優先）。職員全員がそれぞれの役割を理解しておくこと。初期消火を行う際は、逃げ道を確保しておくこと。また、災害対策では、地震に対する基本行動として、身の安全を守る行動、素早い火の始末、出口の確保、初期消火、慌てて外へ飛び出さない正しい情報を得て行動することなどを、ご指導いただきました。最後に自衛消防本部長の両角実総務企画部長から、「訓練等を通じ、日頃から防災意識を高め、火災や災害時等の迅速な行動、冷静な対応につなげてほしい。」との挨拶があり、消防（地震）訓練を終了しました。

（担当）経理課

## 労働安全衛生確保対策連絡協議会を開催する

【鹿児島森林管理署】11月7日、加治木・鹿児島労働基準監督署と鹿児島・北薩・屋久島森林管理署の合同で労働安全衛生確保対策連絡協議会を開催しました。当日は、午前中に川西3096林道新設工事箇所において合同の安全パトロールを実施、午後より会場を湧水町中央公民館へ移し協議会を行いました。



加治木労基署による安全点検

協議会では、各森林管理署の事業量等の説明を行い、労働基準監督署からは、加治木・鹿児島労働基準監督署管内における労働災害発生状況、特に林業・建設業の労働災害について事例を踏まえ説明を受けました。また、安全パトロール結果について労働基準監督署より講評を受け、重機の取扱いによる災害は重大災害に繋がることから、

重機の転落防止対策、工種別数量内訳書にあった重機使用の厳守、重機オペレーターと従業員との合図の統一を図ること等についての意見が出され、工事箇所での改善等について確認しました。

この協議会を機に発注者、受注者の立場を踏まえ、請負事業者等の災害の未然防止に努めていくことを確認し、労働基準監督署へは引き続き、国有林の労働安全衛生管理について、ご指導・ご支援をお願いし協議会を終了しました。

## 恋ヶ浦の海岸林でつる除去作業を行う

【宮崎南部森林管理署】昨年度、串間市の恋ヶ浦で海岸防災林整備として植栽したタブ、トベラ、ヤブツバキの手入れを11月12日



蔓の除去作業を実施する職員

に行いました。



作業後、美しくなった海岸で集合写真

今回は、署内・現場職員総動員で植栽木に覆い被さった蔓の除去作業を行いました。作業前は、蔓が覆い被さって植栽木が見えない状態でしたが、職員が鎌や鉋を使って1本ずつ丁寧に蔓の除去作業を行い見違えるようにきれいになり、来年の春から、また成長してくれることでしょう。この恋ヶ浦は、サーフィンのメッカでもあり、多くの若者が訪れる場所にもなっており、海岸防災林の整備により、海岸の防災機能強化とともに、観光への寄与が期待されるところです。

## 多良木町のむつみ保育園で 森林教室を開催する

【熊本南部森林管理署】多良木町の社会福祉法人「むつみ保育園」からの依頼を受け、年長園児21人を対象に当署職員による森林教室を開きました。

午前中は多良木町を眺望できる妙見野自然の森展望公園で、紅葉狩りやどんぐり拾いを行ったり、森林や植物について説明を行いました。

午後からは、多良木町のえびす広場において、色づいた葉っぱを使った「貼り絵」や押し花を利用した「しおり」作り、どんぐりのコマまわし体験、紙芝居などを行いました。園児の作品はどれも独創性があり、素晴らしい出来映えとなりました。晴天にも恵まれ、自然のなか



しおりの材料を選ぶ園児達

で遊ぶことにより、木や水等の自然の大切さを学ぶ楽しい1日となりました。

## 地元自治会と共同で 不法投棄物を回収する

【熊本南部森林管理署】11月13日、大畑国有林56林班、57林班内及び国道221号線沿線において、地元自治会並びに人吉市役所、請負事業体、当署と合同でクリーン活動を行いました。

当日は前日の雨の影響で足場の悪く、熊本南部林業土木協議会の協力も得て、総勢39人で約2時間程度ゴミの回収に汗を流しました。



ゴミ回収作業の様相

回収されたゴミの量は可燃ゴミ490キロ、不燃ゴミ160キロの計650キロで昨年と比較して不燃ゴミは若干少なかったものの可燃ゴミについては昨年の約1.6倍と増えています。大半がペットボトルや弁当箱など

のゴミでした。



軽トラック満載のゴミ

また、国道沿線の山林で目付に付きにくいこともあることから、不法投棄が後を絶たない状況です。

今後も地元自治会等と連携をとりながらこうした活動を継続していく必要があります。

## 中津労働基準監督署との 合同パトロールを実施する

【大分西部森林管理署】11月13日、中津市内の山国森林事務所管内国有林請負事業現場で、大分労働局中津労働基準監督署と



生産現場で合同点検

それぞれの現場では、参加事業体間で、改善すべき点や評価すべき点等についての意見交換を行った後、柴田専門官から講評をいただき、参加者は、労働安

の合同パトロールを行いました。当日は、中津市役所山国支所会議室で、当署の治山・林道・生産事業を請け負っている事業体6社、立木販売物件を買い受けた2社を対象に、安全指導を行うための会議を開催し、中津労働基準監督署の柴田健一安全専門官から、林業以外の産業も含めた労働災害の発生状況や事例の紹介と、労働災害撲滅に向けて「災害事例などから同じミスを繰り返さない」、「コミュニケーションを大切にすること」

といった安全意識を強く持って、安全文化を構築していくことについての講話をいただきました。次いで、合同パトロールとして、伐倒作業を行っている保育間伐の現場において、待避場所の確認状況や装備、丸太の極積みの状況、重機の整備状況等を点検し、続いて、林道新設工事の現場に移動し、高所作業箇所での安全措置、注意喚起標識の設置、機材の整理等の状況を確認しました。

## おおいた林業アカデミー研修生 国有林で逆指名インターンシップ

【大分森林管理署】11月12日から16日までの5日間、臼杵市野津町に所在する向山国有林内において、大分愛林 有限会社（代表取締役 川野岩光氏）が実行中の森林整備事業（活用型）簡所で、おおいた林業アカデミー研修生2名が、体験を希望する企業を訪問して、日常の現場がどのようなチーム編成で実施されるか、チームの一人一人がどのような役割があるのか等を体験することになりました。

今回、インターンシップ初日にあたり、大分県が掲げる3本柱の一つ「人づくり」を支援するため、本署から植薄森林技術指導官、臼杵森林事務所から田上首席森林官（監督職員）の2名を派遣し、実行中の現場





熱心な技術指導の川野専務 (右)

で研修生が意義深い体験ができるように現地へ同行しました。大分市在住の研修生2名は、実際に動いている現場は初めてということ、現場作業の実施状況を目の当たりにして更に緊張感が増した様子を察して、受け入れ会社の川野専務から、「山はるる気持ち良いだろっ」とタイミンク良く研修生に声かけし緊張をほぐしていました。当日は、搬出路を作設中で、林道まで引き出したスギをチェーンソーを使って玉切る作業を実践しました。

## 「九州森林の日」植樹祭を開催する

大分愛林(有)の川野専務は、「体力がありそうな、生き生きとした若い青年を見ると自分自身も張り合いが出る。若者の視点で、これから林業界で頑張っ

て欲しい。」と期待を寄せていました。

【鹿児島森林管理署】11月17日、当署、鹿児島県、かごしまみどりの基金が主催して、県立吹上浜海浜公園及び網揚国有林80林班において「九州森林の日」植樹祭を開きました。

この植樹祭は、2008年5月に九州7県及び九州森林管理局が宣言した「九州の森林づくりに関する共同宣言」の行動指針に基づき、九州における「美しい森林(もり)づくり」を推進するために、毎年実施しており今年で11回目になります。

当日は、三反園訓鹿児島県知事はじめ、飯牟礼・霧島小・青戸緑の少年団、鹿児島銀行などの協賛企業4社、森林ボランティア団体など約500名が参加しました。

植樹活動では、当署職員による植付方法、また、県担当によるウサギネットの設置方法の

説明後、抵抗性クロマツ、ウバメガシ、マテバシ、アラカシ、ヤマザクラの5種類の苗木1100本を植えました。



参加者による植樹模様



植樹後の参加者みなさんの記念撮影

参加者らは植栽後、苗木のブレセントや吹上浜海岸林の散策、木工クラフト等を堪能し、家路に着きました。来年も県民参加の森林づくりの活動の一環として継続していきます。

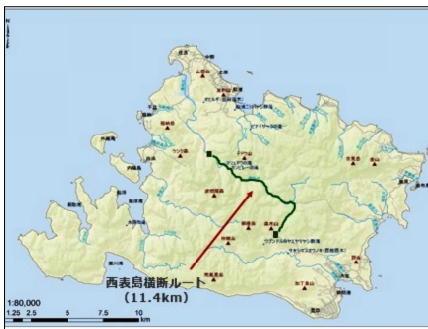
## 船浦中学校・大原中学校「西表島横断」を支援する

【西表森林生態系保全センター】

11月17日に西表島の大原中学校及び船浦中学校が西表島の横断を行いました。

船浦中学校については、当初11月3日に計画されていましたが、前日からの雨で延期され、同日に両中学校、時間をずらしての実施となりました。

この西表島横断は、自然の素晴らしさ、厳しさ、環境問題等について考える機会とし、またお互いが助け合い、励まし合う心を育てること、同時に忍耐力を養うことを目的に、船浦中学校(生徒15名及び保護者、職員等35名の総勢50名)大原中学校(生徒22名及び保護者、職員等35名の総勢57名)が挑戦しました。



西表島横断ルート(11.4km)の位置

当日は、曇り空で暑すぎず寒すぎず絶好の横断日和となりました。6時30分に浦内川河口に集合し各校それぞれに出発式を行った後、遊覧船で出発し軍艦岩に到着。それぞれ各班に分かれて出発、マリユウドウの滝、カンピレーの滝を眺めながら順調に進み、イタチキ川合流地点において、各班でそれぞれに楽しい昼食(おにぎり)を取りました。



カンピレーの滝にて撮影

昼食後、体力に自信がない者はここで引き返すこととなりますが、腹も満たされたせい、全員が終点大富口を目指し歩き始めました。途中、急な傾斜や岩場などの場が悪いところでは、お互いが助け合い、皆で声を掛け合うなど一生懸命でした。生徒達は、終点の大富口まで約11.4キロメートルを約9時間半かけ、滑ったり転んだりしながら歩き、いい経験となりました。到着後、無事踏破の成功

に氣勢を發して、出迎え隊の祝福を受けました。

## 竹富町立白浜小学校の山の体験学習を支援する

【西表森林生態系保全センター】

11月17日竹富町立白浜小学校が毎年実施している「山の体験学習」を沖繩森林管理署とともに支援しました。

当日は、児童15名、教職員6名、保護者等25名（未就学児4名含む）の総勢46名が参加し、9時30分に出発地点である船浦の海中道路から子供達は元気よく出発しました。

今年の「山の体験学習」は、ピナイサーラの滝周辺を散策するという企画で、コースは船浦湾↓滝つぼ↓滝上↓マーレ川のカヌー利用者駐車場まで約6時間の長丁場です。

はじめは潮が引いた船浦湾の干潟に生息する魚介類を発見するたび子供達は歓声を上げて喜んでいましたが、その後マングロープの林から森林の中に入っていくとだんだんと言葉が少なくなってきました。それでも滝つぼに到着すると、この時期西表島でも気温約20度と少し肌寒い中、子供達は「泳ぎたい」と言っていて滝の水に浸かって30分は



干潟の魚介類を探せ

ど遊んでいました。

その後、滝上に向かう急な登り道を未就学の児童も元気に登り切り、滝の上で昼食をとった後記念撮影を行い、午後3時30分には全員無事に駐車場にたどり着くことが出来ました。



ピナイサーラの滝上で記念撮影

山の中ではオキナワウラシロガシの大きなドンクグリや椎の実を見つけ、子供達が「椎の実は食べられるんだよ」と話あっていて日頃から山と慣れ親しんでいることが分かりました。

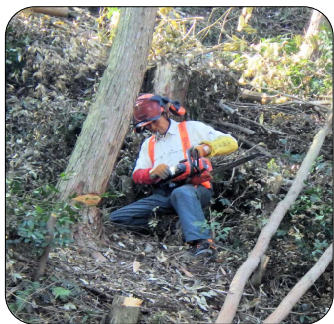
今後、島の子供達が西表島の豊かな自然を体験し楽しい思い出となるように支援を続けていきたいと思えます。

## 九州国有林業生産協会主催による労働安全現地研修会に参加する

【北薩森林管理署】

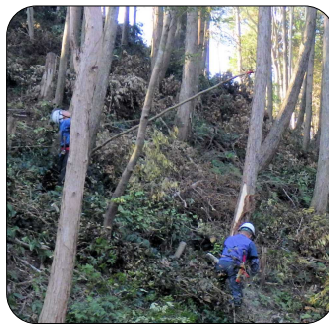
11月20日当署管内において、九州国有林業生産協会主催による伐倒実地研修が行われ、当署管内及び熊本南部森林管理署管内の事業体約20名が参加しました。

冒頭、寺床隆志九州国有林業生産協会理事から「近年の伐倒作業における労働災害の多発は非常に深刻な問題であり、この研修を機に基本に立ち返って欲しい。」との挨拶を受け、講師の林業・木材製造業労働災害防止協会、九州・沖縄地区担当、石川幹靖安全管理士並びに鹿児島県支部・上村行生指導員により労働安全衛生規則の一部改正（案）についての概要説明や実際に立木を伐倒し、かかり木になった場合の対処法等々細かな実技指導が行われました。



上村指導員による伐倒実技

また、三好産業からは二人一組による押し棒を使って上方の安全、伐倒方向の確認ができる伐倒方法が紹介されました。



三好産業より伐倒方法の紹介

その後意見交換に入り、参加者から「つるがらみで伐倒木が倒れないときはどうするのか」等の質疑がなされ、講師らによる応答が行われ充実した研修となりました。

最後に、事務局からこの研修内容を現場に持ち帰り、作業者全員に伝達していただくよう要請が行われました。

## 屋久島町小瀬田小学校で森林教室を開催する

【屋久島森林管理署】

当署においては、11月21日に屋久島町立小瀬田小学校の6年生8人に対して「ヤクスギの歴史」をテーマとして森林教室を開催しました。

この森林教室は総合的な学習

の時間の中で、これまでの屋久島林業の歴史について次世代の屋久島を担っていく子供たちに、少しでも理解してもらうため小瀬田小学校より当署に要請があったものです。

当日は、当署から一口竜也森林技術指導官、吉村浩一主任森林整備官、山口聖技官が参加して紹介を受けた後、山口聖技官を講師として授業が始まりました。

まずは、ヤクスギの歴史的な背景として「ヤクスギはどういうものをヤクスギと呼ぶのか」、「ヤクスギはいつ頃から伐られるようになったのか」等から説明し、江戸時代に年貢として納められていた平木、現在でも林内に残る土埋木そして人工林である地杉の違いを実物で説明し、実際の重さなどを体験してもらいました。また、現在行っている



山口技官の授業の始まり

る地杉生産で使用されている高性能林業機械や地杉を伐採した後の植林の大切さ等、主伐・再造林についても説明しました。

授業の途中で小まめな質問タイムを設けたところ児童からは活発な質問が出されるなどヤクスギの歴史に興味を持ってもらい、最後に児童及び校長先生から感謝の言葉を頂き有意義な森林教室となりました。

### 地上レーザースキャンを活用した森林資源調査の現地検討会を開催する

【熊本森林管理署】11月21日、桜ヶ水国有林105は1林小班外（ヒノキ林45年生及びスギ林52年生）にて、当署及び6市町等（菊池市、大津町、阿蘇市、菊池森林組合、阿蘇森林組合、熊本県北広域本部）19名において地上レーザースキャンによる森林資源の把握に関する現地検討会を開催しました。

はじめに、主催者である熊本本森林管理署長が挨拶し、藤原昭博総括地域林政調整官が森林3次元計測システム（OWL）の操作方法、調査データの編集・管理方法を説明しました。

その後、目測による直径及び樹高を調査、各自地上レーザースキャンで計測後、調査データをパソコン



現地意見交換の様様



地上レーザースキャン計測器を設置



計測結果をパソコンに取り込

ンに取り込み、手計測データとの精度比較や間伐後のシュミレーション、データの各分析等の実演及び操作の体験を行いました。

最後に意見交換では、「効率的に林分を調査できるが樹高の精度向上に期待する」、「立木

の配置や大きさを画面にて確認可能であり森林所有者に森林の現況を説明できる」、「手計測では樹高に個人差があるがレーザースキャンでは差異が生じない」など、メリット・デメリットなどに関する活発な意見が出され現地検討会を終えました。

当署では引き続き、国有林で取り組んでいる低コスト林業やシカ被害対策等の林業技術の普及および情報交換に向けて現地検討会等を開催することとしています。

### 南種子町において第65回熊毛地区植樹祭を開催する

【屋久島森林管理署】11月22日、南種子町農業者トレーニングセンターにおいて、「ゆたかな森は地ぎゅうのみんなのたから物」のテーマのもと、熊毛流域森林・林業活性化センター、南種子町鹿兒島県熊毛支庁、屋久島森林管理署主催による、第65回熊毛地区植樹祭が関係者約160名が参加して開催され、当署からも川畑充郎屋久島森林管理署長、一口竜也森林技術指導官、西之表森林事務所の渡瀬博美首席森林官、富田尚斗技官が参加しました。

式典では、主催者を代表して

開催地である名越修南種子町長の挨拶に続いて、林業功労者表彰、植樹祭テーマ公募入賞者、林業技術競技会入賞者など各種表彰が行われ賞状と記念品が贈られました。また、「第65回熊毛地区植樹祭スローガン」が採択され、民・国一体となった森林整備の推進、種子・屋久連携による木材利用推進、特用林産物の産地づくりの推進などを参加者全員で誓いました。



挨拶する名越南種子町長

なお、その後予定されていた植樹は、あいにくの天候のため中止になりましたが、来年度の熊毛地区植樹祭は関係市町の持ち回りで屋久島町で開催される予定になっています。

### 屋久島にて松枯れ対策連絡協議会を開催する

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】11月29日、屋久島森林生態系保全センター会議室において平成30年度の松枯れ対策連絡協議会を屋久島森林管理署・当保全センター、環境省屋久島自然保護官事務所、鹿兒島県屋久島事務所、屋久島町、森林総合研究所九州支所、屋久島ヤクタネゴウ調査隊の関係者16人が参加して開催しました。



赤くなっている松枯れの状況

協議会は古市真二郎屋久島森林生態系保全センター所長の司会進行により、各機関から昨年度及び本年度の屋久島における松枯れ被害の状況とその対応状況について報告があり、屋久島

の松くい虫被害状況は昨年度より増加し、特にヤクタネゴヨウが島内で最も分布している西部林道に近い栗生地区において増加していることや瀬切川周辺の世界自然遺産区域内で発生していることが報告されました。

今後の防除方針について、森林総合研究所九州支所の金谷整一主任研究員から屋久島においてはヤクタネゴヨウと南限であるアカマツが分布している地域を最優先かつ重点的に防除対策を講じるようにとの提言がなされ、提言に沿って各機関が連携して今後とも防除対策を講じていくことを確認しました。



松枯れ対策連絡協議会の模様

当署及び当保全センターとしては、今後とも松枯れ対策連絡協議会の関係機関と連携協力して、種子島を含む松枯れ対策を講じていく考えです。

## 2018年を振り返って

いろいろな出来事がありました

九州森林管理局では、九州地域における林業の成長産業化の実現に向け様々な取り組みを行っています。ここでは、2018年の出来事をこれまでの「広報九州」で振り返ってみました。

### 綾葉樹林プロジェクトで照葉樹林復元ボランティア実地

2月14日、照葉樹林への復元を図るため、一般企業や学生、NPO、綾町民を含む一般市民など、様々なボランティアによる間伐作業を行った。

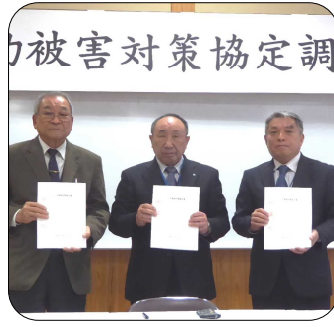


ボランティア方々の集合写真

(平成30年3月号に掲載)

### 全国初、共同施業団地を含むシカ被害対策協定を締結

全国で初めてのシカ被害対策協定を五木村役場において、五木村長、熊本県猟友会五木支部長、熊本南部森林管理署長の三



協定調印後の記念撮影

(平成30年3月号に掲載)

### 宮崎森林管理署が交通安全優良事業所として表彰される



授与された表彰状

3月1日、当署は、宮崎北警

### 九州森林管理局重点取組事項の記者発表を行う

4月18日、九州森林管理局では、「九州が牽引する林業の成長産業化」と題し、平成30年度の重点取組事項について記者発表を行った。



記者発表を行う局幹部

(平成30年5月号に掲載)

### 鳥栖治山事業所を開所する

平成29年7月九州北部豪雨により、多数の山腹崩壊と流木等が発生し、福岡県朝倉市などで甚大な被害が発生した。九州森林管理局では、福岡県、朝倉市など関係機関と連携し、被災地

察署並びに宮崎北安全運転管理署等協議会より、「交通安全優良事業所」に選定され、表彰状を授与した。

(平成30年4月号に掲載)



鳥栖治山事業所に看板を掛ける

(平成30年5月号に掲載)

### くまもと自然休養林である菊池溪谷の安全祈願祭が行われる

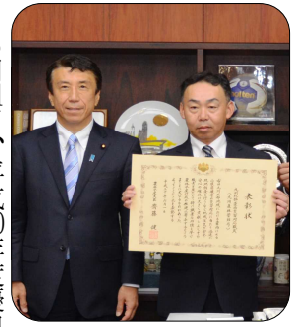


地震後2年ぶりのテープカット

3月23日、熊本地震で被災し、閉鎖が続いていた熊本県菊池市の菊池溪谷において、3月24日の一般開放に先立ち関係者約80人が参加して、安全祈願祭が行われた。

(平成30年5月号に掲載)

**優良職員等表彰で農林水産大臣賞を受賞する**



前齋藤農林水産大臣(左) 赤星治山課長(右)

6月11日、平成30年度優良職員等表彰が行われ、九州北部豪雨災害対応職員(九州森林管理局及び全国の森林管理局から参集した職員)が農林水産大臣賞を受賞した。

(平成30年7月号に掲載)

**西都児湯森林管理署が新庁舎になる**



西都児湯森林管理署新庁舎

新庁舎は、新たな木材需要の創出が期待されるCLTを会議室等に活用するよう取り組み、CLTパネル工法を採用した初

めの森林管理署庁舎となり、7月24日に披露式を行った。

(平成30年8月号に掲載)

**山地災害対策緊急展開チームを愛媛県に派遣**



出発の挨拶をする派遣職員

平成30年7月豪雨により、西日本の広域で山腹崩壊、土石流

等による甚大な被害が発生した。九州森林管理局では、山地災害発生箇所現地調査や災害復旧事業に関する技術的助言などに関して、当局技術職員2名及び大分森林管理署1名を愛媛県に派遣した。

(平成30年8月号に掲載)

**猪八重の滝風景林の選谷が「日本の貴重なコケの森」に認定される**

宮崎南部森林管理署の猪八重の滝風景林は、九州を代表する蘚苔類の宝庫でもある。8月28日に日本蘚苔類学会が選定する「日本の貴重なコケの森」に宮崎県で初めて認定され、10月5日に崎田恭平日南市長を



認定証書授与後の記念撮影

(平成30年11月号に掲載) (担当川総務課)



**九州北部豪雨に遭遇して考えたこと**

平成29年7月5日の九州北部豪雨の被災地である福岡県朝倉市に私の職場があります。

自身が被災したわけではありませんが、同級生を初め友人知人が幾人も被災し、今もみなし仮設住宅に住んでいます。

豊かな所です。水がきれいでおいしいので麒麟麦酒の福岡工場もこの町にあります。しかし、今回の豪雨では、多くの木々が倒れダムにも流れ込んでいます。11月10日のモニター会議に出席された方は、御覧になったと思います。山は至る所で山崩れが発生し、剥き出しの山肌を晒しています。直接の原因は豪雨

による被害が続出し、防ぐための費用も莫大にかかります。でも、10月号の林野を読む

と、木材の自給率が7年連続で上昇する等明るい話題もあり、一人一人が、もっと森林に興味を持ち、また、森林経営として成り立つような社会にする必要があるのではないかと思います。



川上 美和子 さん

福岡県朝倉市は、今建設中のダムを含めると市内に実に3カ所もダムがあります。福岡市の水廻とも言われ、豊かな森と豊富な水に恵まれた自然

本的に森林資源を守るための

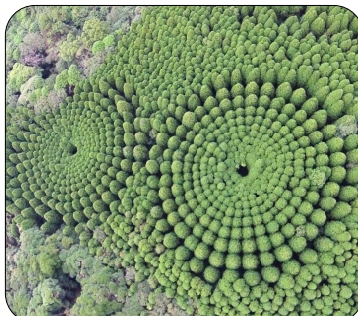
6年位前、縁あって福岡県八女市星野村にほんの少しの保安林を持つことができ、林業に興味を持ったことがモニターに応募するきっかけでした。杉林の木漏れ日の中、少しずつ成長する木々にとっても愛着を感じます。

福岡県朝倉郡筑前町在住

# 「国有林にミステリサークル発見 全国に林分密度試験林をPR

【宮崎南部森林管理署】オヒスギで有名な宮崎県南那珂地域では、弁甲材（造船用材）という独特の木材を生産してきましたが、船のFRP（繊維強化プラスチック）化等により弁甲材の需要は減少し、建築用材の生産へと移行してきました。

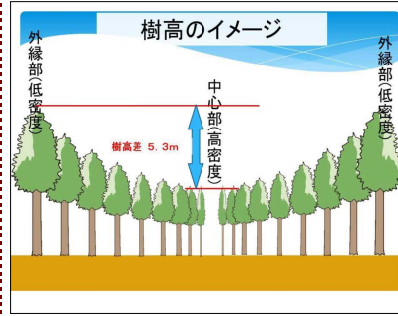
このような中、昭和48年度に設定されたのが、この「林分密度試験林」で、植栽密度の違いによる成長や材質の違いを検証し、オヒスギの建築用材生産に向けた効率的な施業体系を確立することを目的として設定されたものです。



ドローン撮影による試験地の様子

11月に地元紙で紹介されて以降、テレビ局、新聞社、大学等から取材等を受けております。皆さんから問い合わせが多いものとして、①目的、②経緯、③

試験の開始時期、④サークル状になっている理由等です。試験林は、半径の異なる10個



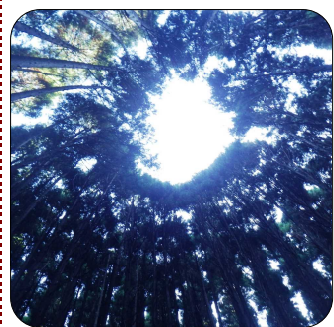
樹高のイメージ図

## 多様な植物 部会の中の憩いの森

アキニレは秋楡と書き、秋に花が咲く生態的特徴からの名前です。名前から北の樹木と考えられがちですが、日本の中部より西に分布する落葉高木です。ちなみに「北海道の楡の木」はハルニレです。



比較的水辺を好み、谷の斜面下部や川沿いなどの肥沃湿潤な土地でよく見られ、葉の形はハ



試験値林内の中心

の同心円状の、円の中心から10度の放射線との交点に36本のスギを植栽し、ヘクタール当たりの密度が377本から10027本となるように設定しており、

## 133 アキニレ(ニレ科)

ルニレに比較して小さく、卵型で葉の基部は左右非対称、縁には鋸歯があり鈍鋸歯（尖裂）が目立っています。秋に黄葉して落葉します。



果実（つちわ形）で、10ミリメートル前後の楕円形で、中央に種子があり10〜11月に黄色く熟し、風によって散布されます。



葉が小さい割に高木になることから街路樹、庭園木にも利用され、葉が小さく枝振りがよいことから盆栽にも使われます。材質材色はケヤキに似ており（別名イシケヤキ）、ケヤキの代替品として利用されることもあり、樹皮からは「縄」を作って利用していました。

上空から見ると森林の中に突然浮かび上がる不思議な模様となっています。現地でのドローン撮影を行わせて欲しいとの要望もあり、当局からも職員が同行し撮影ポイント等を案内しています。今後この貴重な「林分密度試験林」を少しでも多くの方に知って頂き地域の観光資源の一つになればと考えています。詳細は、宮崎南部森林管理署のホームページに掲載していますのでご覧ください。



秋も駆け足で通り過ぎ冬もすぐそこに。秋の風物詩でもある紅葉、今年も緑の中に映える赤や黄色とカラフルなコントラストで人を魅了している。しかし、地球温暖化の影響なのか気候変動により夏の時期が長くなり、葉が色づいたかと思うといつの間にか散ってしまいい紅葉の見ごろの期間も短くなったように感じている▼化石燃料や電化製品を使用することは、生活するうえで必要なことではあるが、こまめな節電など必要以上の使用を控えてゆくことで、みんなが地球温暖化防止対策に協力できると考えている。ふと考えれば、これから冬の季節、日本には「こたつ」という家庭や環境にやさしい家具があるのではないか。居間に「こたつ」を置けば、家族がそこに集まり食事と一緒にでき会話も弾み家族の団らんのある場となり、併せて照明や暖房の使用も一部屋で済むことで、家庭円満と地球温暖化防止の二つの効果が期待できると思うところである▼今年の冬も、「こたつ」で地球温暖化に協力しながら新しい良き年を家族皆で迎えて行きたい。(ほ)